

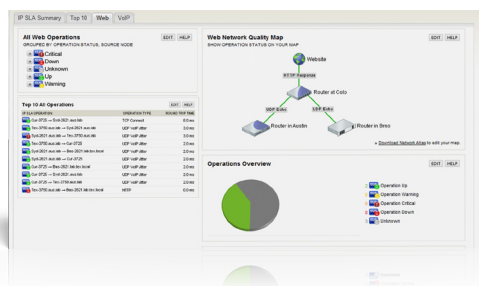
Orion IP SLAマネージャ

ORION NPMモジュール

次世代のOrion VoIP MonitorであるOrion® IP SLAマネージャがネットワークパフォーマンスの新しい全体像を提供

「Cisco IP SLAのおかげで、離れた支社の接続状況を素早く確認し、問題が起こった場合でもSLAの順守を示すことができます。」

wkcheng氏



本社のローカルアプリケーションはいつも通り完璧に動いている。だが、あのしつこいサテライトオフィスは、なぜアプリケーションが遅いと文句を言い続けているのだろう。まさかWANが原因なのだろうか？

Orion IP SLAマネージャはそんな疑問にお答えするとともに、それ以上の機能をご提供します。この新しいOrion NPMモジュールは、Cisco® IP SLA技術を使ってエッジ間のルーターパフォーマンス統計情報を追跡し、WANパフォーマンスを監視します。IP SLA技術はNetFlowと同様に、ほとんどのCisco製WANルーターのIOSに無料で含まれています。

従来のOrion VoIP Monitorから進化したOrion IP SLAマネージャは、サイト特有およびWAN関連のネットワークパフォーマンスで発生した問題を特定するためのパワフルなソリューションです。IP SLAオペレーションをサポートしているネットワーク上のデバイスを検出して自動的にオペレーションを設定するため、サポートしているかどうかを各デバイスで推量する必要はありません。このモジュールで、DNSルックアップ、FTP、HTTP、TCP接続、UDPジッターなど、下層のネットワークプロトコルのパフォーマンスを分析して、基幹WANアプリケーションを監視しましょう。また、VoIP通話パスの監視ももちろん以前同様行えるので、音声トラフィックのサービス品質も確保。Orion IP SLAマネージャが、新しいネットワーク全体像をご提供します。

Orion IP SLAマネージャの主な機能

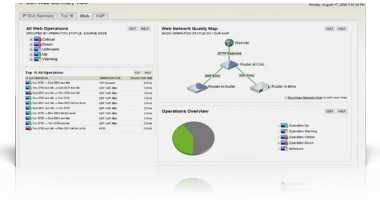
- **WANネットワークパフォーマンスの監視**を、お手元のCisco製ルーターに搭載されているIP SLA技術で実現
- **サイト間のネットワークパフォーマンスを可視化**し、クリック可能なドリルダウンマップを作成
- **検出と自動セットアップ**を、Cisco IP SLA対応ネットワークデバイスでIP SLAオペレーションを使って実行
- WANパフォーマンスを素早く確認し、**基幹アプリケーションへの影響を判断**
- WANパフォーマンスを一目で確認できる**トップ10 IP SLAダッシュボード**
- MOS、ジッター、ネットワーク遅延、パケットロスなどの**VoIPパフォーマンス統計情報**を監視

Orion IP SLAマネージャの機能

モデル	IP SLAソース デバイスの管理数
IP SLA 5	最大5台
IP SLA 25	最大25台
IP SLA 50	最大50台
IP SLA X	無制限

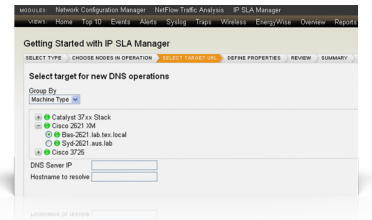
WANパフォーマンスダッシュボード

WANパフォーマンスの監視がかつてないほど簡単になりました。Orion IP SLAマネージャでは、カスタムダッシュボードを作成して、全IP SLAオペレーションの全体的な概要をはじめとするWANパフォーマンスのあらゆる側面を詳しく一元表示することができます。また、IP SLAパフォーマンスの重要な統計情報をまとめた便利なトップ10リストや、パフォーマンスに関する問題の傾向などのサイト間ネットワークパフォーマンスを簡単に可視化するWANパフォーマンスマップも内蔵。マップ上の変化を見ることによって、各サイトでパフォーマンスが低下しているかどうかを素早く把握できるので、たとえばフランクフルトのオフィスが満足していることを確認しながら、香港への接続で発生している問題を解決する、ということが可能です。



IP SLAの自動セットアップ

Orion IP SLAマネージャでは、エッジのルーターやスイッチでIP SLAオペレーションを簡単にセットアップすることができます。複雑なCLIコマンドは一切必要なく、マウスを数回クリックするだけで完了します。まず、監視するIP SLAオペレーションをリストから選択。次に、そのIP SLAオペレーションを行うネットワークデバイスを選択してください。するとOrion IP SLAマネージャは、選択されたIP SLAオペレーションをサポートしているデバイスを自動的に検出して監視を開始します。IP SLAの監視で時間を節約して、残業を減らしましょう。



IP SLAデバイスディスカバリ

バージョン3.1の新機能であるIPSLAデバイスディスカバリは、IP SLA対応デバイスを自動的に検出し、IP SLAマネージャに追加してアクティベートします。まず、IP SLAマネージャがOrionデバイスリスト全体をスキャンし、IP SLA対応デバイスをOrion IP SLAデータベースに自動インポート。インポートが終わると、デバイスの自動アクティベーションを行えるようになります。どのデバイスがIP SLAに対応しているかを推測する必要がなくなり、時間を大きく節約することができます。

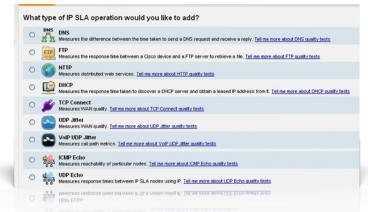


先進的なVoIP監視

Orion IP SLAマネージャはCisco IP SLAを使って、音声通話に影響を与えずにネットワークパフォーマンスの統計データを収集します。このデータにはMOS、ジッター、ネットワーク遅延、パケットロスが含まれており、VoIPパフォーマンスを詳細に把握することが可能です。またOrionのウェブコンソールでは、VoIPパフォーマンスに影響を与えるネットワーク全体の健全性のほか、アラートとレポートも一元管理します。

IP SLAオペレーションの広範なサポート

Cisco IP SLAを使うと、新しいIPアプリケーションをはじめデータや音声を使うIPサービスがすべて、指定したしきい値を満たすようにすることができます。IP SLAは、Cisco IP SLA対応デバイスから他のCisco製ルーター、さらに他のタイプのIPデバイスへの転送メトリクスを測定する技術です。これによって、ネットワーク上のさまざまな地点からのパフォーマンスの同時測定が可能です。



Orion IP SLAマネージャは、次のような一般的なIP SLAオペレーションをサポートしています。

- **HTTP**: ウェブページへのアクセスの往復遅延時間を測定
- **FTP**: ファイル転送の往復遅延時間を測定
- **DNS**: DNSルックアップ時間(要求して応答を受信するまでの時間)を測定
- **DHCP**: IPアドレス取得の往復遅延時間を測定
- **TCP接続**: アプリケーションとサーバーの監視に役立つ、接続時間を測定
- **UDPジッター**: 往復遅延、片方向遅延、片方向ジッター、片方向パケットロスを測定
- **VoIP UDPジッター**: VoIP通話パスメトリクスを測定
- **ICMPエコー**: 往復遅延を測定
- **UDPエコー**: IPを使ってIP SLAノード間の応答時間を測定
- **ICMPパスエコー**: tracerouteを使ってネットワークパスを検出し、IPを使ってCisco製ルーターとデバイス間の応答時間を測定
- **ICMPパスジッター**: tracerouteを実行したネットワークパスで、パケット間遅延の変動を測定

アラート、レポート、イベント

Orion IP SLAマネージャは、アラート、レポート、イベントを使ってWANネットワークパフォーマンスの最新状況をお知らせします。しきい値を超えた場合は、パラメータがそのWANリンクで「適正」とされる値を超えた旨を知らせる通知がすぐに行われ、迅速に問題解決を開始することができます。また、グラフとレポートを使って傾向の履歴も解析できるので、既存の展開に対するパフォーマンス計画とともに、新規展開を行う前のWANパフォーマンス予想値の算出を簡素化することが可能です。さらに、用意されているIP SLAレポートを自動送信するようスケジュール化して、上司への毎週の報告にも簡単に活用できます。

Orion NPMモジュール

- NetFlowトラフィックアナライザ
- アプリケーションパフォーマンスモニター
- IPアドレスマネージャ
- IP SLAマネージャ

Orion NPMモジュールは、Orion NPMの機能をネットワークトラフィック分析、IPアドレス管理、VoIP監視、アプリケーションとサーバーの監視にまで拡張します。

システム要件

OrionモジュールであるOrion IP SLAマネージャには、Orion Network Performance Monitorのインストールが必要です。Orion IP SLAマネージャのシステム要件は、Orion NPMの要件を越えません。